

イザヤのバビロン^{せいふく}征服の^{よげん}預言

イザ 43:18~21 先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事を
 する。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒
 野に道を、荒地に川を設ける。野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒
 野に水をわき出させ、荒地に川を流し、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。わたしの
 ために造ったこの民はわたしの栄誉を宣べ伝えよう。

1. イスラエルの民が捕虜になることを預言しました

- 1) すべてが荒れ果ててしまっても、レムナントが起きることを預言しました（イザ 6:1～13）
- 2) 来られるキリストを預言しました（イザ 7:14）
- 3) アッシリヤが侵略することを息子（むすこ）の名前で預言しました（イザ 8:3）

2. レムナント^{うんどう}運動^{よげん}を預言しました

- 1) レムナントが残ると言いました (イザ 6:13)
- 2) 神様の^{かみさま}みことばは永遠だと伝えました (イザ 40:1~27)
- 3) 神様が^{かみさま}新しいことをなさると言いました (イザ 43:18~21)
- 4) 起きて光を^お放ちなさいと言いました (イザ 60:1~22)
- 5) 大路を^{おおじ}整えて、^{ととの}国々の民のために旗を高く^{はた}揚げなさいと言いました (イザ 62:6~12)

3. レムナントとはだれでしょうか（イザ 6:13）

- 1) 残り^{のこ}の者^{もの}です
- 2) 残^{のこ}る者^{もの}です
- 3) 残^{のこ}れる者^{もの}です
- 4) 残^{のこ}す者^{もの}です



せいじつ 聖日みことばのタイトル

せいじつせいしょかしよ
聖日聖書箇所

06

せいじつ (しゅじつ)
聖日 (主日)

れいはい じゅんび れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
わたし せいかつ てきよう
みことばを私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です れいはい

れいはい じゅんぴ
礼拝の準備のチェック

- ☒ せいしょ
聖書
- ☐ けんきん
献金
- ☐ ひっきようぐ
筆記用具
- ☐ こどものいのりの手帳
子どもの祈りの手帳
- ☐ しゅうほう
週報を読む

いっしゅうかん^{にぎ}
一週間握るみことば

ふうぜん ともしび 風前の灯火のイスラエル

「風前の灯火」ということばがあります。「風にさらされ、いまにも吹き消されようとする灯火」という意味ですが、物事が危険にさらされていて、滅ぶ寸前を意味します。預言者イザヤが活動していた当時のイスラエルは、風前の灯火のような状況に置かれていました。紀元前931年、ソロモンが死ぬとイスラエルは、南のユダと北のイスラエルに分かれるようになりました。このように、国が分かれたイスラエルとはちがって、周辺の国々は続けて力を大きくしていきました。アッシリヤの軍力はますます勢いを増し、バビロンは高度な文明によってさらなる力を蓄えていきました。また、過去にカナン全域を支配していたエジプトだけでなく、アラムまでもが虎視眈々と機会を伺い、イスラエルに睨みを利かせていました。

明らかな事実は、神様がイスラエルをこのような強大国の間に置かれた理由があったということです（エゼキエル5:5）。神様は、イスラエルがその場所で、いつも神様自身だけを頼って、正義を行って、すべての民族に福音を伝えることを願っておられました。それゆえ、そのことを最も上手にできる地に導かれたのですが、残念なことに、契約を忘れたイスラエルは、風前の灯火のような葛藤の土地になってしまっていたのです。



かみさま こころ 神様の心を せいかく し 正確に知っていたレムナント

このような神様の心を正確に知っていたレムナントがいました。それが、預言者イザヤです。南のユダの10代目の王であるウジヤが死んだその年（紀元前739年）にイザヤは、エルサレム神殿を訪問しました。そこでイザヤは、神様の御座の驚くべき栄光に圧倒されてしまいました。イザヤは過ぎた日を反省して、これから神様のために生きると心に決めました（イザヤ6:1～13）。

わたしは、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。
「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

イザヤ6章8節

その日以来、預言者イザヤは、エルサレムのいろいろな指導者に神様のみことばを大胆に宣言しました。イザヤ書には、このような話がかかれてあります。偶像を崇拜して神様を拒否すれば、異邦の国々を通してさばきが臨むという重要な警告（参考：イザヤ1-39章）と、それにもかかわらず、神様はご自分の契約を必ず覚えて成就されるという希望（参考：40-66章）のメッセージを、同時に宣言しました。

上の内容を参考に、いくつかのエピソードを紹介しましょう。イザヤは王の顔をうかがうことなく、神様のみことばを預言する預言者として有名でしたが、特に、12代のアハズ王と13代のヒゼキヤが王であった間に起こった事件を見てみましょう。（イザヤは11代のヨタム王から、14代のマナセ王までの歴代の王につかえ働きをしました）

みなみ だいおう 南のユダの12代王アハズ

南のユダの12代王アハズは、南のユダの歴史上、最も悪い王として記録されています。彼は、神様の目にかなうことを行わず、子どもたちを偶像にささげ、すべての民を偶像崇拜させました（Ⅱ歴代28:1～3）。

ある日、北のイスラエルがアラムとの同盟を拒否して仲が悪くなりました。心配したアハズに預言者イザヤは驚くべき神様のみことばを（イザヤ7:1～25）を預言したのですが、アハズ王は神様よりアッシリヤの王を頼りました。その後、結局アッシリヤが紀元前722年に北のイスラエルを滅ぼしました。南のユダはなんとか国は残りましたが、アッシリヤの属国として、多くの奉納物をささげなければならないみじめな境遇に陥ってしまいました。





みなみ だいおう 南のユダの13代王ヒゼキヤとイザヤ

みなみ のユダを統治した 12代アハズの時代が終わり、13代ヒゼキヤが王位を受け継ぎました。イザヤは、彼に神様のみことばを宣言し、ヒゼキヤは神様の目になう（Ⅱ列王 18:3～5）行動をしました。彼はアハズとは違って、偶像をすべて片づけて、神殿を置いて、いけにえと祭りを回復しました。そして、南のユダの王として国をより一層、堅くすることに最善を尽くしました。

しかし、このようなヒゼキヤ王にも試練が訪れました。彼はアッシリヤでなく、エジプトと同盟を結んでアッシリヤに敵対しました。このことで腹を立てたアッシリヤが、集中攻撃を始め、その結果、南のユダはいろいろな都市を失ってしまいました。アッシリヤの威力に怖気付いたヒゼキヤは、あわてて神様の神殿と王宮にあった銀、そして神殿と柱を装飾していた金を全部はがしてアッシリヤにささげました（Ⅱ列王 18:15）。しかし、アッシリヤ王セナケリブは、止まることなく、再び軍隊を率いて侵攻してきて、いつのまにか、南のユダを包囲して降伏を要求しました。ヒゼキヤは、それまで知らずに頼っていた人間的方法を下ろして、神様の神殿の前に進みました。彼は神様に救いを求める祈りを始めました。そのようなヒゼキヤにイザヤが現れて、神様のみことばを預言しました。

みなみ めつぼう よ げん 南のユダの滅亡を預言したイザヤ

とき なが 時が流れて、ヒゼキヤが治めていた南のユダは裕福で強い国になりました。そのようなヒゼキヤと良い関係を結んでいたバビロンが、ある日、南のユダに使節団を送りました。このとき、ヒゼキヤは、バビロンの使節団に自分の力を自慢しようと、南のユダにあった多くの宝物を見せびらかしました。このようなヒゼキヤの心の悪さを見たイザヤは、後に、ヒゼキヤの持っているすべての財産と子孫が、バビロンに連れて行かれると叱責しました（Ⅱ列王 20:12～19、イザヤ 39:5～7）。

使節団：国を代表して伝えることを任されて外国に派遣される人のこと

STEP 1

下の聖句は、イザヤが神殿で神様の栄光を見た場面です。
イザヤ 6章 13節のみことばを黙想して空欄にことばを入れましょう。

そこにはなお、十分の一が残るが、
それもまた、（ ）。
テレビンの木や樅の木が切り倒される時のように。
しかし、その中に（ ）がある。
（ ）こそ、その切り株。

STEP 2

預言者イザヤのことばを聞いたアハズ王とヒゼキヤ王のちがいは何だったでしょう。いっしょにフォーラムしましょう。

アハズ



ヒゼキヤ



STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう

学院福音化のメッセージを聞いて、バビロン征服を通して成し遂げられようとした神様の計画が何か、自由に考えてフォーラムしましょう

あらかじめ^{せいふく}征服したダニエル

- 1) 天^{てん}の軍勢^{ぐんせい}の長^{ちやう}であるミカエルが立ち上^たがることを預言^{よげん}しました(ダニ 12:1)
- 2) 救^{すく}われる人^{ひと}と滅亡^{めつぼう}する人^{ひと}がいると預言^{よげん}しました(ダニ 12:2)
- 3) 多く^{おほく}の者^{もの}を義^ぎとした人^{ひと}は、大空^{おおぞら}の輝^{かがや}きのように輝^{かがや}くと言^いいました(ダニ 12:3)



発行:(社)世界福音化伝道協会 出版:図書出版生命 子どもの祈りの手帳 2022 年 3 月号より日曜版 翻訳監修:jcmmessage.jp

3か

さき れいてきせいふく にん せいねん
先に霊的征服をした3人の青年

ダニ 3:8~23 もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。(17)

1. サタンの戦略があります(ダニ 3:1~7)

- 1) 強大国を通して他の国を征服します
- 2) 神殿戦略を通して、人々の心をつかみます
- 3) 偶像政治によって、人々を統治します

2. 三人の青年は、霊的に征服しました

- 1) カルデヤ人が、ユダヤ人を訴えました(ダニ 3:8)
- 2) 偶像崇拜しないなら、死刑にするという法を作りました(ダニ 3:9~11)
- 3) シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ(三人の青年)が偶像を拝まないと王に訴えました(ダニ 3:12)
- 4) ネブカデネザル王は怒りましたが、もう一度機会を与えました(ダニ 3:13~15)
- 5) 三人の青年は、神様が救い出すことができる、しかし、もしそうでなくても、拝まないと言いました(ダニ 3:16~18)

3. ネブカデネザル王が信仰を告白しました

- 1) 三人の青年はものすごく熱い火の燃える炉の中に投げ込まれました(ダニ 3:19~23)
- 2) 四人が火の中を歩いていけたけれど、体はひとつも傷つきませんでした(ダニ 3:24~25)
- 3) ネブカデネザル王はいと高き神様をほめたたえました(ダニ 3:26~30)



せいじつ
聖日みことばのタイトル

せいじつ せいしょ かしよ
聖日聖書箇所

20

せいじつ しゅじつ
聖日(主日)

れいはい しゅんび れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
みことばをわたくしの生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です

れいはい しゅんび
礼拝の準備のチェック

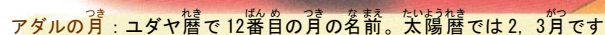
- ☒ せいしょ 聖書
- ☐ けんきん 献金
- ☐ ひっきようぐ 筆記用具
- ☐ <こどもの祈りの手帳>
- ☐ しゅうほう よ 週報を読む

いっしゅうかんに
一週間握るみことば

あらかじめ^{せいふく}征服したエステル

1. 世の中には、人間中心主義を使う人が多くいます。ハマンも人間中心主義を使っ^{つか}た^{ひと}人でした

- 1) ハマンは総理^{そうり}でしたが、高慢^{こうまん}と野望^{やぼう}がいっぱいでした
- 2) モルデカイとユダヤ人^{じん}をみんな殺^{ころ}そうと良くない法^{ほう}を作りました
- 3) エステルがユダヤ人^{じん}であることをハマンは知りませんでした (エス 2:1~10)
2. イスラエル最大^{さいだい}の危機^き時代^{じだい}を迎え^{むか}えました
- 1) 全ユダヤ民族^{ぜん}を殺^{ころ}そうとしました (エス 3:1~15)
- 2) エステルはいのちをかけて決断^{けつだん}しました (エス 4:1~17)
- 3) 王^{おう}の前に現^{あらわ}れたエステルは、王^{おう}とハマンを宴会^{えんかい}に招待^{しょうたい}しました (エス 5:1~14)
- 4) ある日^ひ、アハシュエロス王^{おう}は眠^{ねむ}れませんでした (エス 6:1~14)
- 5) 2回^{かい}目の宴会^{えんかい}で、モルデカイのために準備^{じゅんび}した木^きにハマンがかけられるようになりました (エス 7:1~10)
3. プリムの日^ひ
- 1) アダルの月^{げつ}の十四日^{じゅうよんにち}と十五日^{じゅうごにち}をプリムの日^ひとして守^{まも}りました (エス 9:20~24)
- 2) 王^{おう}の調書^{ちょうしょ}が発令^{はつれい}され、歴史^{れきし}に記録^{きろく}されています (エス 9:25~32)
- 3) モルデカイは総理^{そうり}になりました (エス 10:1~3)



せいじつせいしょかしよ
聖日聖書箇所

れいはい じゅんび れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
わたし せいかつ てきよう
みことばを私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です
れいはい

れいはい ^{じゅんび}
礼拝の準備のチェック

- ☒ せいしょ
聖書
- ☐ けんきん
献金
- ☐ ひっきようぐ
筆記用具
- ☐ こ いの てちよう
＜子どもの祈りの手帳＞
- ☐ しゅうほう よ
週報を読む

いっしゅうかんにぎ
一週間握るみことば

バビロンがアッシリヤに征服されました

優れた軍事力を持つアッシリヤは、周辺地域を一つ一つ捕まえていきました。結局、紀元前722年にアッシリヤによって北のイスラエルが滅ぼされると、南のユダも奉納物を捧げる身分になりました。やがてアッシリヤは、エジプトを倒して、西アジアで最も大きな国になりました。このとき、バビロンはアッシリヤの属国に過ぎませんでした。しかし、紀元前612年に強大なアッシリヤの首都ニネベが、バビロンによって攻め落とされました。これによって、アッシリヤは力を失うことになります。この事実を知ったエジプトが、やや遅れてアッシリヤを助けようとした。ところが紀元前605年、エジプトもバビロンにカルケミシュ地域で惨敗してしまいます。結局、アッシリヤは滅亡して、アッシリヤが支配していたすべての土地をバビロンが占領することになりました。

ついに預言者イザヤが預言したこと（参考：1課の解説）が成就してしまいました。その勢いに乗って、バビロンは南のユダに向かい、南のユダの主エホヤキムはネブカデネザル王に奉納物を捧げて降参しました。このことは、偶像崇拜をしながら悪を行い続けた南のユダに対する神様のさばきでした。神様は、さばくための道具としてバビロンのネブカデネザル王を用いられたのです。



イスラエルの民が捕えられました

南のユダの18代王であったエホヤキムのとき、最初に有能な人物がバビロンに捕虜として連れて行かれました（Ⅱ列王 23:35、ダニエル 1:1～2）。バビロンは、王族と貴族、熟練した働き人など、重要な人物を中心に捕虜を選び、また、神殿の宝物も持って行きました。このとき、ダニエルと三人の同僚がともに連れて行かれたのです。

ダニエル

少年ダニエルは、ユダ部族の貴族出身でした。ダニエルは、3人の同僚とともに、バビロンの捕虜として連れて行かれ、特別な訓練と教育を受けました。彼は「王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒」（ダニエル 1:5）と表現されるバビロンの精神と文化に流されることなく、神の子どもアイデンティティを守って、だれよりもかっこよく育ちました。後にダニエルは、すべての呪法師、呪文師よりも優れた知恵（ダニエル 1:20）によって、王たちに（ネブカデネザル、ベルシャツアル、ダリヨス、クロス）認められ、長い年月を重要な位置で働きました。

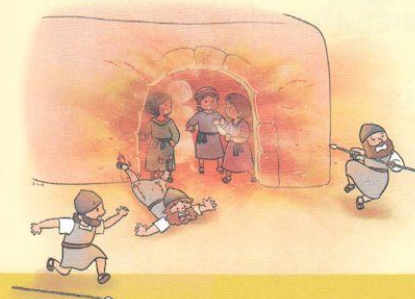


ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤ

ダニエルといっしょに捕虜として連れて行かれました。私たちがよく聞く名前はバビロンの名前であるシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴです。（ダニエルはベルテシャツアル）彼らにとっても大きな事件が起こりました。ある日、ネブカデネザル王が違った、金の像の奉獻式が行われました。そのとき、偶像である金の像を拝むように命令したのですが、3人は、金の像を拝みませんでした。



3人が拝まないことを知った王は、3人を呼びましたが、彼らは恐れることなく、拝むことはできないと言いました（ダニエル 3:16～18）。このことばを聞いて怒った王は、いつもより7倍も熱くした火の燃える炉に彼らを投げ込みました。しかし、御使いが彼らを守る姿（ダニエル 3:25）を見て、神様を認めました。（ダニエル 3:26）



あいかわらず、エホヤキムは、預言者エレミヤを通して語られた神様の警告（エレミヤ 27:17）を無視しました。そのため紀元前601年にバビロンが再び攻め込んでくると、エルサレムは陥落してしまいました。（Ⅱ列王 24:1～7）バビロンは、エホヤキムを王の座から退け、次の王としてエホヤキンを立てました。

イスラエルの民が再び捕えられました

紀元前586年に再びエホヤキンがバビロンを裏切ったことに腹を立てたネブカデネザルが、再び南のユダに攻め込んで来ました。そしてこのとき、第二次の捕囚として捕虜を選びました。

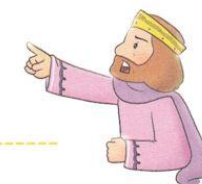
王であるエホヤキンを含む多くの人、その数およそ1万人がバビロンに連れて行かれました。そのなかに、預言者エゼキエルがいました。南のユダは、再びバビロンによってゼデキヤ（マタヌヤ）が王に立てられました。

イスラエルの民が三度、捕えられました

それから10年が経って、バビロンによって立てられたゼデキヤ王が、またもバビロンを裏切りました。がまんができなかったネブカデネザルは、南のユダを完全に滅ぼすことにしました。攻め込んだバビロンの軍隊は、ゼデキヤの両目をつぶして捕虜として捕らえるとともに、イスラエルの大部分の民を捕虜として連れて行きました。

こうして南のユダは、紀元前586年に完全に滅亡しました。

バビロンとペルシヤの王クロス



一方、このような過程をすべて見守った預言者エレミヤは、悲しみのうちに重要な預言をしました。

まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。（エレミヤ 29:10）

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つかるだろう。わたしはあなたがたに見つけられる。——主の御告げ——わたしは、あなたがたの繁栄を元どおりにし、わたしがあなたがたを追い散らした先のすべての国々と、すべての場所から、あなたがたを集める。——主の御告げ——わたしはあなたがたを引いて行った先から、あなたがたをもとの所へ帰らせる。」（エレミヤ 29:11-14）



驚くことに、この預言はそのとおりに成就しました。永遠に続くかのように思えたバビロンも崩れました。バビロンの捕虜として捕えられてから約70年が過ぎた紀元前538年、ペルシヤのクロス王がバビロンを破って、捕虜として捕えられていたユダの人々が彼らの土地に戻ることを許しを得ました。こうして、南のユダの人々は、彼らの土地に再び帰ることができたのです。

ユダヤ人、ペルシヤの王妃エステル

ペルシヤの王クロスは、ユダの人々（ユダヤ人）が彼らの土地に戻ることを許可したのですが、戻らずにそこに残った人もいました。＜エステル書＞は残ったユダヤ人に関する書物で、クロス王が下した命令から約80年後、シュシャンの地域で起こったことが書かれています。

ある日、ペルシヤに新しい王妃が立てられました。驚くべきことに、その王妃は自分たちの国に戻らないで残っていたユダヤ人のひとりでした。そのとき王宮で働きながら彼女の世話をしていたこのモルデカイは、彼女がユダヤ人であることを知られることが心配になりました。そこでユダヤ人であることを隠すために、本来の名前である「ハダサ」ではなく、別の名前と呼ぶことにしました。それが「エステル」です。



「あなたがこの王国に来たのは、
もしかすると、この時のためであるかもしれない。」

ある時、ユダヤ人に危機が訪れました。王に認められていた臣下ハマンは、自分を認めないモルデカイを邪魔に思いました。憎む心がますます大きくなって、モルデカイだけでなく、彼の民族をすべて殺すことができる悪い計画を立てました。ハマンの計画によって、すべてのユダヤ人が殺されることになったのです。そのとき、モルデカイがエステルを訪ねてきました。そして、神様がユダヤ人をペルシヤの王妃として立てられた理由を尋ねました。これはエステルが命を失うかもしれないことでした。

私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。
たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。
私は、死ななければならないのであれば、死にます。」



エステルは神様の理由を悟って決心しました。神様の計画を確信したエステルは、死んでもかまわないと、王の前に進みました。すべてのユダヤ人が一つの心で断食して祈りました。しばらくして、ハマンの悪い計画は王の知るところとなりました。王は、ハマンがモルデカイを殺そうと作っておいた柱にハマンをぶら下げました。そしてモルデカイを王の次に相当する総理として座らせました。

状況がひっくり返って、ユダヤ人が救われたこの日が、ブリムの日です。ユダヤ人はこの日を祭りにして、神様を賛美しました。今でもユダヤ人はこの日を記念しています。

ブリム：「くじを引いた」ことからついたことば。ハマンがくじを引いて、ユダヤ人を殺す日を決めたことに由来する

STEP 1

次の聖句を探して書いて、私がエステルならば、どんな思いになるかを互いにフォーラムしましょう。

エステル4章16節のみことば

STEP 2

上の箇所を考えながら、これから最も大きな危機と苦しみがあるかもしれないことを考えて、そのときに神様の前でどんな告白をささげたいかをいっしょにフォーラムしましょう。

STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう

学院福音化のメッセージを聞いて、あらかじめ征服できたエステルの奥義は何だったのか自由に考えてフォーラムしましょう。